

役員的情熱によるものであった。その気持ちは、現在毎年計画実行される事業、年数回の研修会、会報会誌の発行、年次統計などの継続活動に、また文献情報の相互協力ネットワークを、さらに図書室の充実と医療情報活動へ貢献するために強化しようという高い理念に生きていると思う。研修会を例にあげれば、各回協議会会員が講師や研究発表者となり、後輩を育てている。またその他関係学会にも積極的に参加し発表を行っている。このように孤立していた病院図書室は研修会を機会に、容易に担当者同士の意見交換や親睦が計られるようになり、研修会を企画する側も受ける側も現在の情報化の波に対応すべき力を蓄えてきている。一方、図書室を取り巻く情勢はきびしく、担当者自身の努力により、利用者層を拡げ、情報提供サービスを向上させようとしても、病院の中

においては、残念ながらまだその支援体制が整っている機関はそう多くない。

病院図書室の標準化について議論がかわされ、当協議会では実務面での標準化を図るため1984年に「病院図書室マニュアル」を編集している。現在、東京では日本病院会図書室部会が基準案を日本病院会に答申されたということである。また、各方面における医療関係図書室間や医学図書館を含めたネットワーク化も進んでいるが、これらの動きが病院図書室の存在にとって、よい影響をもたらすことを願っている。

図書室活動を病院の中において根づかせようとする会の目的に向って、会組織と会員個々がもう一歩進んだフロンティア・スピリットで努力したいものである。

## ゼロからの出発

千住とも子

(日生病院図書室)

近畿病院図書室協議会(病図協)創設の頃のことを書くように編集部から電話があった。すでに設立時の現状と問題点の分析・報告<sup>1)</sup>、病図協の10周年の総括<sup>2)</sup>があるのに何をいまさら書くことがあるのだらうと思いつつ15年前を振り返ってみるが、何しろずいぶん前のこととて裏話も思い出せない。ただ、大阪市内からは遠い京都市立病院、京都南病院、星ヶ丘厚生年金病院等へ幹事会や会報編集の打ち合わせなどで足繁く遠出したことを覚えている。

そういえば、あの当時も今もよくわからないのが創設時の財政のことである。病図協は誰からの、どこからの要請でもなく、有志の発意によって呼びかけが行われ、準備会のようなものができ誕生したのであるが、そこには何の財政的基盤もなかった。設立準備のための費用を拠出した記憶がないのに無事病図協が設立された。意志あるところ道ありとでもいうのだろうか。いみじくも会報第1号(1974)に述べられているように、「会の

財政について：会費を2,000円とする案をたてた頃から実際に活動を始めるまでの間に、印刷費その他の物価の値上りで既に年間5~6万円の赤字が見込まれている。何等かの対策を講じなければならぬが、当分このままで活動していくことにする。研修会は出来るだけ参加費によって独立採算でやっていく。」として出発したのである。その後の会報を辿ってみると、初期5年間は財政に関する記事が散見されるのであるが、5年を過ぎるとそれまでの財政的あえぎがまるでうそのように会報に現れなくなっている。パイオニアに苦労は付きものとはいえ、財政ゼロからのその苦労の軌跡を再度会報に追ってみたい。

「会の財政について(赤字対策)」(会報通巻2号, 1974)、「寄付の報告、カンパのお礼」(同5号, 1975)、「カンパのお礼」(同8号, 1975)、「第2回総会—会運営の強化：財政、会費改定；今年度は年間会費2,000円という低額な会費の徴収を行ったため、度重なる事務連絡、

また事業必要経費、交通費、会合費などはほとんど支出できない苦しい財政状態であった。今年度は公共料金等諸物価の値上げが見込まれるので、この際会費を倍額の年4,000円にすることになった。」(同10号, 1975)、「第3回総会 — 財政の強化、会費改定; 第2回総会に続いて今総会においても会費の改定を行いたい。その理由は会報の発行、郵送にかかる費用が増えたこと、役員が役員会に出席したり、会の用務で出張する際の交通費を支出したいこと、また数多い事業のための準備費、予備費を確保したいこと等による。」(同17号, 1977)、「第4回総会 — 財政の強化、財政の確立、会費改定; 昭和52年度の会費の値上げを1,000円にとどめたが、その結果事業のための費用が捻出できず、重複雑誌目録、雑誌所在目録の作成はほとんど幹事の手作業によって行われている …… 昭和53年度の会費を7,000円とする。」(同23号, 1978)、「幹事病院連絡会の開催 — 財政上の問題点討議; 差額会費案、協議会発行資料の有料化、入会金新設案」(同24号,

1978)、「第5回総会 — 財政の強化: 入会金の制度化、広告料の増収、会費改定; 会の運営、協同事業をできるだけスムーズにするため、また幹事病院の負担を軽くするために会費の改定を行う …… 54年度の会費を年額1万円とする。なお不足の分については会報の広告料を充てる。」(同27号, 1979)

かくして、今では研修会で会員が講師をつとめた場合にも謝礼を出すことができるようになり、会員が病図協以外の研究会で発表する際には助成金を出せるようになったとも聞き及んでいる。

会員が育ち、会員を育てる。会を発起し、たゆまず関わってこられた方々に敬意を表します。

#### 参考文献

- 1) 川原佳子: 近畿病院図書室協議会 — 現状と問題点  
医学図書館 22(3): 149-157, 1975
- 2) 松本純子: 近畿病院図書室協議会  
医学図書館 31(2): 84-91, 1984

